

令和3年度 自己評価および学校関係者評価書

令和4年3月25日  
函館市立湯川中学校

1 本年度の重点教育目標

『確かな学びを通して自信をもち、未来の創り手となる生徒』の育成

2 本年度の取組の重点

- 1 経営ビジョンに基づく教育活動の充実 2 確かな学力を育む教育活動の充実  
3 豊かな心を育む教育活動の充実 4 健やかな身体を育む教育活動の充実  
5 家庭・地域との連携・協働した教育活動の充実 6 教職員の専門性を磨く研修の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
1 経営ビジョンに基づく教育活動の推進	①すべての生徒にICTを活用した最高の学びを提供したか	b	・教師側が不慣れで試行錯誤中のため、校内研修等で活用について推進する。	A	A	・日頃よりPC等を利用しており、メリットが期待できる。
	②教育の中心に生命最優先の精神を据え、いじめの未然防止、安全・安心な教育環境を整えたか	a	・子どもの生命や尊厳を中心に据えた教育を今後も継続していく。	A	A	・安心、安全な学校作りと過ごしやすい環境の継続を願う。
2 確かな学力を育む教育活動の推進	①一人一人を大切に学習指導や協働学習が機能する指導・評価計画の改善ができたか	a	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、指導と評価の一体化を図る。	A	A	・子どもそれぞれの学力向上に向けての指導を充実させれば、同時に評価も期待できる。
	②校内研修を充実させ、問題解決、わかる実感などを目指した授業改善が図れたか	b	・研究主題である道徳の他、評価やICTなど喫緊の課題への対応を図る。	B	A	・常に改善を目指し、ICT活用を軸とした課題に対応している。
3 豊かな心を育む教育の推進	①体験的活動の串刺しを図り教育課程編成上の工夫・改善ができたか	b	・感染症の対策による教育課程の変更で体験活動が制限された。感染予防と両立した体験を工夫して行う。	B	A	・制限のある中での湯川学の発表はすばらしかった。生徒と教員の努力が結果につながっている。
	②考え、議論する道徳の取り組みを充実させることができたか	b	・校内研修において道徳の授業改善を継続して推進する。	B	B	・学校生活でのことや実話など身近な内容の更なる議論が望まれる。
4 健やかな身体を育む教育活動の推進	①自己管理能力や自ら健康で安全な生活を営む能力を育てる教育活動の工夫を図ることができたか	a	・スケジュール管理手帳の活用により自己管理を行うことができた。今後も継続していく。	A	A	・自己管理の日常化の徹底でさまざまな資質、能力が育まれている。
	②生命尊重や自尊感情の育成と人間関係づくりを図ることができたか	a	・人間関係づくりを通して、いじめのない学校づくりを推進する。	A	A	・行事や部活動を通し、頑張る心、諦めない心、仲間を思いやる心を大切にすることができた。
5 家庭・地域との連携・協働した教育活動の推進	①安心メール、学校・学級便り、CS、懇談会等で情報をタイムリーに発信できたか	b	・学校運営協議会やPTA活動に大きな制限がかかったため、連携が困難だった。家庭や地域との連携の在り方を今後議論し、工夫していく。	A	A	・コロナ禍の中、メールやお便りでの発信は安心感につながり、貴重な情報源であった。
	②コミュニティ・スクールの理念に基づき家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか	b		B	B	・感染症対策により、連携が困難だった。
6 学校における指導体制等の充実	①二期制の充実・改善等によりカリキュラム改善に基づく確かな学びの場を保障できたか	b	・二期制の2年目にあたり、成果と課題を共有して今後のカリキュラム改善を図る。	A	A	・改善方策の成果に期待している。
	②勤務時間を意識した働き方改革への理解、勤務環境や業務の見直しを組織的に改善できたか	b	・働き方改革を意識した勤務の更なる推進と、業務の偏りや業務量の見直しを一層図る。	A	A	・先生方のご指導、ご苦勞には、日々感謝している。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。